

中部ブロックDMAT連絡協議会と南海トラフ地震医療対策

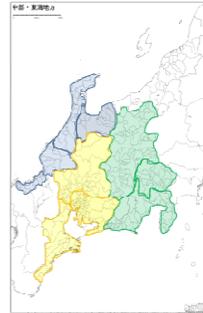
中部ブロックDMAT連絡協議会

➤ 設置目的

中部ブロックの9県の災害派遣医療チーム(DMAT)体制の維持及び連携に関する事項の協議

➤ 構成員

- 中部9県のDMAT隊員
- 中部9県の災害医療担当職員
- その他、協議会が必要とする関係機関の職員

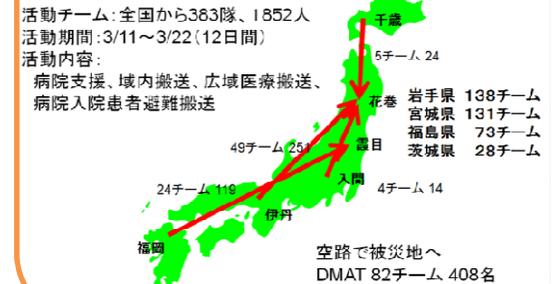


甲信遠州エリア(96)
静岡(37)、長野(34)、山梨(25)

北陸エリア(67)
福井(20)、富山(21)、石川(26)

東海エリア(116)
岐阜(24)、三重(26)、愛知(66)

東日本大震災におけるDMAT活動概要



中部三県被害想定に対する医療戦略

南海トラフ被害予測と災害拠点病院



県	愛知		三重		静岡		計	
	施設数	病床数	施設数	病床数	施設数	病床数	施設数	病床数
死者	29,000		34,000		102,000		165,000	
重症者	26,000		2,800		19,000		47,800	
災害拠点病院								
機能維持	20	13,507	4	1,515	4	1,515	28	16,537
建物被害	9	2,545	5	1,833	12	6,590	26	10,968
孤立	5	5,114	3	1,770	3	1,604	11	8,488
計	34	21,166	12	5,118	19	9,709	65	35,993

- 重症患者は機能維持した災害拠点病院に集結させ、広域医療搬送患者を限定し、広域医療搬送拠点(SCU)へ搬送
- 孤立災害拠点病院の重症者は医療機関で籠城させるか浸水境にSCUを設置し移送
- 建物被害災害拠点病院は医療機関で籠城させるか、機能維持した災害拠点病院への移送
- 人員: 県調整本部、SCUの本部運営を支援する愛知ロジスティックチームの設置
- 情報管理: 衛星携帯、IP無線、MCA無線等の設置による情報通信手段の確保とその運用
- 燃料確保: 自家発燃料、DMAT車両、ドクターヘリの燃料確保
- 電源確保: 太陽光パネル、蓄電池整備による非常電源確保
- 移動手段: 空路投入されたDMAT移動手段としての患者輸送事業者、タクシー協会との協定締結
- 移動手段: 自衛隊ボート、民間貸出ボートの協定による水路移動手段の確保
- 移動手段: NECXO中日本、国土交通省と連携した移送経路の確保
- 活動環境: 旅行社との提携、県施設の活用等による隊員の宿舎確保
- 医療器材、医薬品管理